

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



inches 1 2 3 4 5 6 7 8
centimeters 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

C Y M

© Kodak, 2007 The Kodak

浄宗護国篇

卷之四

法華一本體云原州の法隆寺
二八八五に初祖(法隆寺)に在りて是より神光の爲に
之を連祖の真傳と爲りて云はるべし其の傳を合して
一法相といふは自ら傳傳と市町村中其を連祖と云ふ傳傳の文
字を傳傳て元正の傳傳と云はるべし其の傳傳を合して一法相といふ
出たるは二所の傳傳と云はるべし 二傳傳の傳傳を合して

律宗懷國篇卷之四

武州三塚山増上寺阿彌陀佛靈像記

三塚山増上寺の五叙^{三塚山}とて一^{三塚山}座敷がりて安

たりて、其の三塚山増上寺の五叙とて一^{三塚山}座敷がりて安

東照社^{東照社}君を指すなりとて、其の傳傳を合して一法相といふ

其の傳傳を合して一法相といふ、其の傳傳を合して一法相といふ

其の傳傳を合して一法相といふ、其の傳傳を合して一法相といふ

其の傳傳を合して一法相といふ、其の傳傳を合して一法相といふ

其の傳傳を合して一法相といふ、其の傳傳を合して一法相といふ

けりきく。身はくもせんそけとなくともまへん
 神君の夢成なりてせなめさせ終り。と何ちよ
 きつて家待宿の人におどろきありそとてはぬ
 くる。やうくお人よとそら人をがて 御はあふ事
 おりせありしを彼中人成りて又ふはささる
 へりおれとわが都にうつせありては信りしは
 けり今夜の神君ももうたの支度ふりおさへわたり
 病まの命はぬくそと昔家へまゐりてこたを
 ぬおれつしはぬきてけりとなんか。けり

ありぬが。又よふりしそりしを。けりし勇士乃祿
 ぞけり。吾却て是は感也。は林いづり乃武士とそ
 ぬがん。抱もまの良材なり。そはぬくは罪と許し
 右へけり。志むるそとておのをさりてふ。高きゆり。
 像の武士は、けりしけりし氣也。ゆきもかきつひ
 わりまをす。折はををたて。慥に成りしを。ゆきを
 けりし。ゆきし。御座志し。ゆきし。ゆきし。ゆきし。
 入る中上し。ゆきし。ゆきし。ゆきし。ゆきし。
 身よりあやし。ゆきし。ゆきし。ゆきし。ゆきし。

意の強健なる故にわたり彼れこそ一掃より一掃
 新卯辰句 からも要し。まゝの成忍をより成也。
 其の意をこゝろそまのの意なりぬらば其の成なり
 志の強健なる故にわたりこそ一掃より一掃
 うらうら。強はこゝろに成なりていそれと
 又小論か。又それを強してつげ用ゆるは是也
 志強なるを。そのを成しぬらば其の成なり
 のれつ。その成なり。まゝなりていそれと
 自のより成なり。強はわたり成なり。その成なり

志を強し。その成なり。まゝなりていそれと
 志を強し。その成なり。まゝなりていそれと
 志を強し。その成なり。まゝなりていそれと
 志を強し。その成なり。まゝなりていそれと
 志を強し。その成なり。まゝなりていそれと
 志を強し。その成なり。まゝなりていそれと
 志を強し。その成なり。まゝなりていそれと
 志を強し。その成なり。まゝなりていそれと
 志を強し。その成なり。まゝなりていそれと
 志を強し。その成なり。まゝなりていそれと

憐れむ人言いづれも善人海を志とのる
 けしきとてこの詞なく感涙をぞもまゝなるを
 せば 南舎まじふりて 衣力をまかす
 各言成教すも業曼をてく 過漢を極とす此の中
 るも一時の佛前して持せあり 念珠の二連板珠
 してあり 其此のいとまふり 何れもささるるが
 神志は難代成まきとせありたり 他有りてありし
 有りて 天上にてもあり 是れもささるる二輪の三珠を
 乞い 法陽宗正一心院乃 開基 秋念上人のまことなり

さらぬ 扱えより 扱は像の 御景法いと深く扱くも
 扱くは扱えなり ありはもなる 巻長二十寸小つりて
 御衣之板表り 御後高の巾時 嗚方此は極はますと
 かくたふ 傍あり 其よりまゝ 御衣の御甲後志
 老力の糸にいつりまて 巻さこれたぢなりなり 切
 結は 扱ふ 扱は 扱は 扱は 扱は 扱は 扱は 扱は 扱は 扱は 扱は
 討てりこれ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ
 乃 扱ふは 扱ふなり 扱ふなり 扱ふなり 扱ふなり 扱ふなり 扱ふなり 扱ふなり 扱ふなり 扱ふなり 扱ふなり
 さらぬとて 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ 扱ひ

秘神の擁護がたり。もひはつり。

神君の事候よりして、國師上人の秘子了庵御此二

大内中よりあるを名なく。序され也。尉をいらせ

あり。に。後老善臺のとりて、常依りまはす。

秘志の徳しと。ありて。軍士の世に、意儀あり。佛雲

を難敷。いふ。後あり。二人の傳とよむ。び

いなり。そ目の軍は。とて。其昏いりて。いふ。

軍物。返さぬ。いふ。昔候と。うりあり。いふ。いふ。いふ。

廟より。わけ。いふ。いふ。いふ。神君。善臺。あり。

後、坊上も小邊様ありける。清子も、軍。長連云

の。世代よりて。容を。教。いふ。いふ。いふ。いふ。

俗。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

神。君。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

此。等。様。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

近。彦。君。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

平。之。日。の。夜。方。又。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

を名をうけし。いふをそふむ。其の儀がもたえいつく
けかりもたえもあつたり。火の物。よきびりて。昔縁
縁縁結てうけぞうり。こま儀みせり。縁。うらこ。こ
あつり。昔縁をねとまら。縁。つがた。こたの御
助の縁。これ。少三。縁。なうり。大。縁。とは。度。縁。乃
中。よ。縁。あり。け。こ。不。思。儀。な。れ。こ。と。縁。て。後。寺
内。の。傳。信。お。き。こ。り。後。縁。こ。ら。た。よ。と。も。史。中。り
言。縁。を。ね。奉。り。う。思。て。傳。信。り。と。り。も。り
取。信。り。と。り。思。も。り。こ。り。元。福。八。年

大御軍。御。古。公。教。會。儀。く。て。も。の。と。傳。言。の。文。縁。儀
傳。造。り。も。の。中。世。公。桂。品。流。儀。一。位。大。人。新。よ。所
新。子。月。儀。造。り。と。り。く。後。儀。を。り。な。う。り。
大。君。大。君。職。礼。し。も。の。を。法。月。留。作。去。ま。り。た。い
大。重。の。儀。為。利。生。儀。小。新。し。く。新。を。り。り。す。方。に
他。儀。も。ま。り。て。利。益。を。な。す。り。の。こ。と。な
棟。此。新。儀。始。り。神。君。の。内。儀。般。小。重。し。わ。り
ま。り。て。後。儀。を。儀。下。儀。般。小。重。の。こ。と。は。又
大。御。軍。儀。流。儀。始。り。あ。つ。て。妙。相。と。り。り。り。縁。儀

ほどくもつり。是後、
 一、多人をかり、又、
 けり、向、万、代、り、
 事、あ、り、
 氏、校、有、り、
 不、過、の、教、
 事、と、の、あ、り、

津京護國篇卷之四終

跋

這書れおとそく、
 三人、
 居、ん、ご、
 世、り、
 形、
 子、
 子、
 子、

其して清て勝しと云ふ亦と調れ親睦くもま
 居るの彼人いつくも書様も彫くせりも
 之事盛ん州然と云ふ又種彦去乃同安
 又字又保字も然く福心乃もわく通漢云々
 細意もまづれに撰集其切信してぬ界りなり
 可々をまゝしりしり或や信く此言を文て解
 つつ放捨くも書く添りもん予も乞とありて
 少々の免くもてり然るなり予もいひてさ事
 をまゝしりし書や 柳當家乃他故事よりて

一部のみを神聖賦詞に述奉人言也有り
 この事向てままばをげ及さるる詞とて
 つつ信んち存又公事なりしりぬれあり
 金物とて磨泥し厚くしりし編よ作が
 ちをたてしあるは帳布とて信くあやそ
 己教に及拜し信也母同もりたるに
 きりやう強し怪しうあり然其志と云
 なる初後くねりしりしりしりしりしり
 なるなる又文章より下りしりしりしり

限りの御神印を返す。海三河船舎事とそ
 祿儀しらくぎとて奉文の書き。そむきて事成ことなり三幸人
 ほど恐れあり何事とせん服法ふくほうに手より言ことは多し
 孕はら乃すなはゆりて懐はら儀ぎを御ご奉ほう儀ぎに
 少すくもつむあつとしてん是こゝも初はつめ學まな書かき事こと成なり乃すなはちぬ
 あまのこかき事ことを始はじめとつ。予こゝは台たい使し所ところ也
 ちと尋たづねていぬぬまをいつるはる。あ初はつめ祿しらく乃すなはち
 る人ひとと云いはれあさるるあまのこ。そ中なかづけり
 ちよふかろ一ひとに。事ことはなんたんの成なりとあまのこ也。

祿名しらくな念ねん佛ぶつ乃すなはち助すけ縁縁さそなるり。あつといひとふ。

あり

正德五乙未年五月穀旦

華頂山御藏版目錄

圓光大師繪詞傳

四十八卷
合本二十四冊

黑谷語燈錄

七冊

同行狀翼讚

二十卷同上人傳

十冊

同秘傳鈔

三冊漢語燈錄

七冊

同略頌

並刻和語燈錄

七冊

三部經

義山清濁
中形兩面摺

五部九卷

義山清濁

九冊

同大形

同
四卷十七卷

同 善導記
良忠記

見聞附
高師通云

二十三冊

同科圖經

同

四冊同要文

義山清濁

一冊

同合讚

七冊往生論註

同

三冊

選擇集

義山清濁

二冊七卷書法精

再板

七冊

同 濁附 惠空点 二冊 安樂集 義山清濁 二冊

同 决疑鈔 頭書 五冊 往生禮讚纂釋 五冊

同 微考 三冊 鎮西宗要 五冊

淨土名目圖見聞 頭書再板 三冊 同聽書 二冊

宗略大要義 關通和尚述 一冊 淨業課誦 附錄 九折經有 二冊

念佛名義集 一冊 梵本三經 弥陀 普賢 心經 一冊

皇都書林麗澤堂藏板標目錄

學信和尚行狀記 二冊

直道感瑞往生傳 一冊

淡海往生傳 二冊

專修念佛四要篇 一冊

當麻曼荼羅圖

同 圖本 一冊

同 搜女疏 警州洞澤天竺寺 大觀和尚述 七冊

同 述持記 古ヨリ曼荼羅二疑ニモ深ク改メ諸尊ヲ圖 印衣服ニテクハレク正シアラタメシモノナリ 四冊

同 綱要 義山上人述 無外文疏述 二冊

同 大經開檀記 披玄疏ヲ和又モシヨリ 大觀和尚述 四冊

同 智光清海善導 同 大觀要旨ニ關シテ書ス 各二冊 宛

同 復古和讃 喉響大定 中持經 撰ニ和セシモノ也 二冊

此書近江國專修念佛寺人多稱見せし年カニシテカキテ見ヤス書ナリ

此書平カキテ 義州ニ誕生シ給アリ淨宗志サシカキテ念佛起テ方リテ終ニ大往生アリテ多ク下代ウチ奇瑞アリト事トモアルル也

此書ハ法師伊豫ノ國ニ産シテカ多佛道ニ志セリヨリ發心シテ又不知身ヲ專修念佛瑞相感見ニ終往生スレト事トキ年々傳入シテ老若男女ト見ナキ本ナリ

二冊

一冊

此書ハ平カナニシテリシウノコ、
口ヘニナドキヲフルベシ

護法資治論

不淫居士述 五冊
神儒三夢 蘇軾著

同 後編

大典釋師述 五冊
大ニシテ集々々々

明遍一紙法語彙注
奇持名も透例ニヤ

曾都 菩提心安心ノミ
屬別八華止

念佛無上醍醐篇

菩提師述 三冊
五味ノ中念佛ノ醍醐味云々ト五勝即臨陀

同 秘要藏

粗前備ニテ
二冊

十樂手鏡

淨土ノ十樂ヲ和解シテスレクハ且
十樂ニ對シテ人間ノ十苦ヲノヒテ

同 無能和尚行業記

柳谷玄海述 二冊
かた抄の中用文ヲ兵部ニテノ解トシテ

同 遺事

一冊
代記ニテハおもひ

弘法大師念佛法語直解

同 一冊

同 禮誦法

竹田了意著 一卷
從業師法也

三部假名抄

白門口人述 三冊
いまま世人夢遊之國ニテ者ハ秋ノモホサキ

同 要解

七冊
多抄トシテノ解トシテ

同 諺註

七冊
讀小報基ニ佛次上人述

同 言釋

二冊
かた抄の中用文ヲ兵部ニテノ解トシテ

同 無能和尚行業記

二冊
柳谷玄海述

同 遺事

一冊
代記ニテハおもひ

高野大師明遍僧都授與ノ法
語ヲ直解シタル書ナリ

施餓鬼問辨

同 一冊
七名功應并門是ヲカス

律苑行事問辨

律苑行事作法ヲス
十一冊

梵網經要解

同 六冊
片々真名經師傳ノ註

日本最勝念佛法語該註
又聖德太子念佛法語

同 一冊
博士學等念佛ヲ疑ハ聖太子法語ヲ以示テ

善導和尚行狀記

同 二冊
并善光寺如來緣起

一投起請諸說辨斷

同 一冊

空華隨筆

同 二冊
律師一代心カカシ草草集

同 談叢

同 四冊
律師見聞覺智抄草書

奥羽念佛驗記

名徳和尚述 三冊
手鏡上ノ到羽書ニテ名徳和尚ヲ以テ目録ニテ

圓頓戒誘蒙

一冊
水戸觀微述

同 和解

三冊
妙ノ阿字佛

方服圖儀

三冊
儀ノ和尚述

涅槃隨文略讚

三冊
靈巖院僧名義釋共記

念佛奇特現證集

二冊
淡真江行述

淨宗蓮華圖說

四冊
切ノカガ

同 淨宗蓮華圖說

四冊

彌陀和讃集註

同

三冊

和まゝ御徳ヲ讃歌セシワサンニシテ其註釋ヲシレタル書ナリ

神國神字辨論

同

一冊

神代ノ文字ノツクハシクノレ書ナリ金吾道人ノ問律師ノ答

合掌本義篇

同

一冊

放生會手引

同

一冊

鎮西聖光上人繪詞傳

同

十八冊

聖光上人御一代行狀ヲクワシテハハ入ニシテ解ニヤスキ書ナリ

義山和尚行業記

同

一冊

御傳述懷抄

同

一冊

用意問答

良忠上人述 一冊

同輯要

蓮門修行心得ト云 三冊

澄禪和尚行狀記

代明和尚著 本坊書 同答ニテ多ク註解セシト 三冊

同續

前編ニカケルニシテ 一冊

現證往生傳

泉濱雲山和上述 三冊

上ノ高僧ヲ始メ下ハ凡入道道俗ニ至テ往生ヲトケレトクアラフナリ

執州往生驗記

津天鏡寺大順述 三冊

伊勢一國往生セシ人ヲアズセル書ナリ

待定法師利益傳

待各樂例和尚述 二冊

生値の昔りセウク道ノ心ナクセ入道の後ニカケテ修行アリト云フナリ

同遺事

舜目法印御傳著述ノ片金ハク功應替歎講説等ノヲアツメタル書ナリ

同述讚

御傳ノ解方々ヲ集メテ關通上人述 三冊

同圓光

大師トシテ來の經傳又を大綱トシテトクニシテ

空華和歌集

御傳傳法神流ト云ハ大綱トシテトクニシテ

華頂大法會圖録

全二冊

元祖大師御遺澤の以テ細見の圖勅命の式畧等ナリト云フ

淨業知識

寮間和上述 二冊

東域念佛利益傳

外縁自傳ト云フ念佛の時日課故ト云フ又念佛と云フ故若ク又自傳ト云フ也

雲説和尚念佛利益傳

おもしろ成業ニ依テ念佛の便ト云フ又念佛の利益ありて云フ也

同意業録

前云ト云フ也

百萬遍新禱辨抄

尊徳寺御傳著述ト云フ

發願文和釋

法華經ノ和釋ト云フ

孝感冥祥祿

師モ言明ト云フ

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

一冊

四八願題詠抄

浪華大蓮寺風紀述 五冊
平八願寺哥多註解卷之

熊谷蓮生行狀記

智のちうて 八冊
成のちうて 八冊

法の道ちうく

慈空和上述 一冊

同代繪抄

本行狀記のちうて 七冊
しんぎんじ 七冊

別時念佛法流儀注

忌微上人述 一冊

九想詩諺解

本行狀記のちうて 二冊
しんぎんじ 二冊

淨土要略抄

向上人述 二冊
要文八編 一冊

同繪抄

淨土所依ノ經論并 鎮西西山ノ兩派一念佛
多念ノ二義亦宗意 立據ヲ多クシテ書ス

勸化和讃

以外ノ別本 二冊
和役百首

識知淨土論

一冊

彌通和尚行業記

三冊

傳戒論

沙門ノ聲述 一冊

念佛安心大要抄

一冊

同

沙門龍全長述 二冊
卷ノ多キ註釋アリ

圓光大師

佛遺跡 廿五箇所案内記 小本二冊

同補註

私記

夢庵戲秋集

二冊

稱讚淨土經

三冊

唯稱安心鏡

二冊

專修安心鏡

一冊

念佛神力傳

二冊

忍辱隨筆

二冊

古欲彈誓上人繪詞傳

一冊

陰騭文流疏

二冊

同翼讚

同

問澄和尚行狀記

一冊

厭求上人行狀記

同

本朝新因緣集

五冊

以八上人行狀記

同

鎮觀用心講抄

一冊

同

同

同

同

念佛安心 一册 歌求上人述

一言法談 一册 同

同頭書 三册 報恩寺傳授

同句解 四册 同

空也上人繪詞傳 三册 同

十王讚嘆修善抄 隆光公述 二册

諸宗 捷徑 佛法簡要錄 一册

諫母州 一册

法岸和尚行業記 全部二册

開防の國津領

口稱百万遍聲記 一册

淨土十要 五册

念佛選權評 一册 新刻

忍徵勝瑞記 一册

伊豆弥陀穴之記 一册

臨終用心 一册

同 節用 二册

同 元亨釋書和解 一册

元亨釋書和解 二册

金剛寶戒章 三册

象光大師 圓光大師前知源 全部二册

同 盡考說 全部二册

吉水達磨云義論附錄 全部一册

稱名感應記 全部二册

賢岡子行狀 全部五册

同 誓願寺像記 同二册

真信佛事編 同六册

閑窓雜錄 全部一册

比丘尼戒本 同 一册

淨土十勝論 同十八册

十王讚嘆抄 同 二册

八事心辨

緇白性生傳

全部三冊

此書は初十の有りて死の講話の事なり
かきとらふ人のしるべき事なり

此書は阿上人称会上人以及上人法堂以下
諸聖人内外上人方の性生傳を要する

彼岸辨疑

全部二冊

同通和尚述

此書は二書のむんのしりごとく
くわんせり

勸化本義

同二冊

靈魂得脱物語

同二冊

女人性生章

同二冊

此書は善保のころ善師が性生何事
しるべき事なり

善惡因果經和訓

同二冊

此書は性生と性生傳
同三冊

此書は性生と性生傳
同三冊

此書は性生と性生傳
同三冊

此書は性生と性生傳
同三冊

聖徳太子傳圖終

全部六冊

此書は佛傳神のしりごとく

淨土

日用念誦
禮論法

折經
浄まのりごとくなり

二十五菩薩之圖

大小
一冊

六時禮讚

龍山遺稿

授菩薩成要解

妙樂大師述
一冊

佛名會式

一卷

七十五法名目冠註

此書は有京七十五法の名
目を撰集し書す
三冊

圓光大師和讃

一卷

起信義記

三冊

四箇法用

又ハ大原声明ト云
御々各處和讃述

同幻虎錄

音辨議
各五冊宛

日設禮讚偈

一卷

一投起請諺論

一冊

往生要集

御々各處和讃述
御傳縁起目錄

二冊

執持名號勤行式

片かなひのまじりて
性生のしるべき事なり

選擇集次第抄會本

五冊

太上感應篇
同持驗并二要語

各一冊宛

忍徴上人行業記

二冊

引聲彌陀經

折經

大乘義章

二冊

華嚴探玄記

念佛追善說

一冊

同發揮抄
并五教次第

發菩提心集

公案

三冊

五教章冠註

一切經惠林音義

同復古記

高野大師行狀記

同衡秘抄

淨土群疑論

同因真抄

文鏡秘府論

俱舍論冠註

疏第二重
第三重

悉曇二蜜抄

諸秘釋

御書物所

京洛東知恩院古門前石橋町

澤田吉左衛門

右外書物徑師檢下垂括言以御用符付之偽善書并古本賣買估之

愛知県図書館



1108186997

183

カク

818699